

農林技術研究所だより

最新研究紹介

鳥獣の被害対策や捕獲に関する各種の普及啓発資料の作成



静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林育成科 上席研究員 片井 祐介

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターでは、新成長戦略研究「イノシシと戦う集落づくりと森林づくりに必要なシカ管理に関する研究(平成25年度～27年度)」として、集落周辺に出没し農作物に対して大きな被害を発生させているイノシシと個体数が増加し生態系への悪影響が懸念されているニホンジカの被害対策について研究を実施しました。この成果として、「鳥獣被害対策の進め方(集落住民・農業者が協力して行う被害対策の進め方)」、「イノシシ捕獲ハンドブック(箱わな編)」及び「シカ捕獲ハンドブック(くくりわな編+改訂版)」を作成しましたので紹介します。

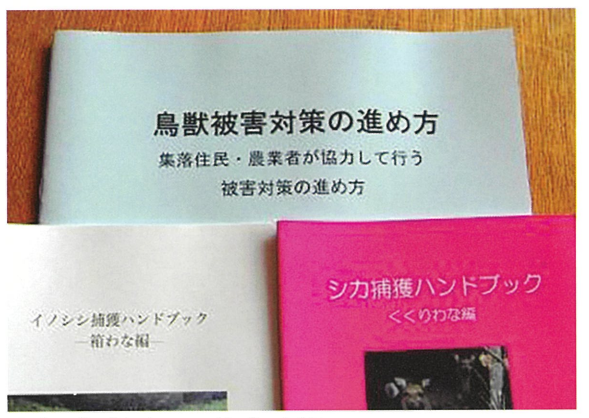


写真1 作成したハンドブック等

1 鳥獣被害対策の進め方 集落住民・農業者が協力して行う被害対策の進め方

鳥獣による農業被害の対策について、生息環境対策、予防対策、捕獲対策の三つの対策を並行して実施していくことで相乗的な効果が得られます。本冊子では、この三つの対策の方法について紹介しています。

まずは「生息環境対策」です。現在の被害対策の問題点として、捕獲が主たる対策として行われ、次いで被害予防として防護柵の設置が行われ、生息環境対策の視点はほとんどありません。しかし、集落から餌をなくしていつたり、隠れ家となる場所の撤去などを行ったりしなければ、鳥獣の出没を減らすことは困難です。そこで、まずは無意識に行っている餌付けを避けることの必要性などを説明しています。たとえば集落内にある、収穫されない柿や栗などは鳥獣を寄せる原因となるため撤去します。

次に「予防対策」として実施する防護柵については、現場での普及は進んでいますが、設置方法などに誤りが多く、十分な効果が得られていないものがあります。そこで、基本的な柵の設置に対する知識と特に扱いが難しい電気柵について詳しく説明しています。

シによる掘り起こしについて、発生時期や被害程度、掘り起こし場所の特徴などの調査結果をまとめています。「わかりやすい森林・林業シリーズ No.23」では、森林整備地で捕獲したシカにGPS首輪を装着して行った行動調査の結果をまとめています。その結果メスの群れの行動圏は、50ヘクタール程度であり、その行動圏は隣の群れとは重複が少なく、行動圏がパッチ状に成立している様子が見られました。

最後に「捕獲対策」として、特に農業被害対策として行われることが多い箱わなでのイノシシ捕獲の情報や捕獲した獣肉を利用する際に気を付けなければいけない各種感染症などについて説明をしています。なお捕獲に関しては次項で紹介するハンドブックでさらに詳細に説明を行っています。

効果的な鳥獣被害対策を行うためには、当事者である農業者だけでなく、地域住民の協力が必要です。この冊子では農業者だけでなく集落住民も協力して行う被害対策について紹介していますので、実際に被害を受けている農業者以外にも幅広く知っていただきたい内容となっています。

2 イノシシ捕獲ハンドブック 箱わな編

イノシシの箱わな捕獲は、銃などに比べ取り組みやすいことから、被害を受けている農業者でも新しく始める人が増えています。

しかし、捕獲を始めると幼獣は捕獲できても、成獣は捕獲できないとの問題に直面することがあります。被害防止の点からは自然死亡率の高い幼獣よりも成獣を捕獲することが望ましく、また目の前で幼獣を捕獲された成獣は箱わなへの警戒心を強くし

てしまい、捕獲が難しくなることも考えられます。

そこで、このハンドブックでは、箱わなを使い始めたばかりの方を対象に成獣を捕獲するための箱わなの設置方法を解説しています。

また、箱わなを設置することには抵抗がなくても、捕獲されたイノシシのとめ刺し作業が難しいため、実際に捕獲に取り組めない方も多くいます。このため、従来の銃や刃物以外で、初心者でも安全にとめ刺しができる電撃器を開発し、その作成方法や利用方法なども紹介しています。

3 シカ捕獲ハンドブック くくりわな編(改訂版)

ニホンジカは生態系への影響が大きく、農地周辺だけでなく、全体の生息数を抑制していく必要があります。そこで、県内各地で狩猟だけではなく、有害捕獲、管理捕獲などの捕獲機会を増やしています。この捕獲現場で広く使われている「くくりわな」について、現場での設置や注意点などについて紹介するとともに、くくりわな運用上の問題である「空はじき」を従来の製品よりも劇的に減らした、当センター開発の新たなくくりわな「空はじき知らず」の紹介を行っています。

また、従来の足を捕獲するくくり

わなとは根本的に異なる、新たな首用くくりわなを紹介しています。この首用のくくりわなは従来の足くくりわなで問題となっていた設置に関するハードルを下げることに、ツキノワグマの錯誤捕獲が起こりにくい構造となっています。

シカ捕獲ハンドブックは、平成23年に初版を作成しましたが、その後の法改正や新しい研究成果を加えて今回の「平成28年3月改訂版」を作成しました。

4 その他資料の活用

以上紹介した3冊以外にも「ミカン園における獣害対策」、「茶園における掘り起しの現状と対策」、「わかりやすい森林・林業シリーズNo.23」など、研究成果についてわかりやすい資料を作成し、広く公表しています。

「ミカン園における獣害対策」では、浜松市三ヶ日地域で行った自動撮影カメラによる行動調査の結果から、被害の状況とその対策についてまとめています。被害については、農業者はイノシシによる被害への認識でしたが、実際はハクビシンの出没がイノシシよりもかなり多く、この被害を抑えられない果樹園も見られました。「茶園における掘り起しの現状と対策」では、主に茶園の法面でのイノシシ



5 おわりに

農地周辺での鳥獣被害は、そこで耕作を行う農業者が正しい知識を持ち、適切に対応することで軽減させることができます。

鳥獣被害対策の情報は、インターネットなどでも多数見られますが、安定した効果が期待できない情報も多く見られます。今回作成した資料にある技術については、全国各地で広く実証されているものです。鳥獣被害対策としては、簡便で、かつ効果の高い技術は、現時点では開発されておらず、まずは、今回紹介した資料などで基本的な知識を身に付けて対策にあたってくださいと思います。

今回紹介した資料は、すべて森林・林業研究センターのホームページ(<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-850>)からダウンロード可能です。ダウンロードした資料については、配布や他の刊行物への転載も自由に行っていただいてもかまいませんので、積極的にご活用下さい。ただし、捕獲ハンドブックなどで説明している捕獲に関する規制は、毎年変更されることもあるため、最新の情報を入手するようにしてください。

連絡先
浜松市浜北区根堅2542-8
静岡県農林技術研究所
森林・林業研究センター 森林育成科
0531-58313160